

令和4年度第4回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和4年8月6日（土） 10時～12時

テーマ：投網で魚を捕って観察しよう

場 所：天王崎湖岸（行方市麻生）、集合場所：「白帆の湯」駐車場

講 師：中村 誠先生（元茨城県内水面水産試験場職員、当センターパートナー）

参加者：34名

担当職員：7名

パートナー：8名

結 果：

天王崎湖岸で、投網によって魚類などを捕獲し、観察を行いました。

まず、講師の中村先生から、霞ヶ浦の魚類、投網の扱い方、安全についての注意などの説明をいただいて、魚類の採集を開始しました。投網による採集は、最初のうちはなかなかうまくいきませんでした。徐々に慣れてきて、網に魚がかかるようになりました。

採集が終わったところで、捕れた生き物について、中村先生から解説をいただきました。解説があった魚類（10種）・エビ類（2種）は以下の通りです。

最後に、観察した生き物を霞ヶ浦に放流して、無事観察会は終了しました。

ワカサギ

捕れた個体は、今年の2月ごろに生まれた（ふ化した）ものと思われる。そして、来年2月ごろに卵を産んで死ぬ。寿命はほぼ1年ということ。栄養が悪い個体は、かえって長生きで2～3年生きる。

クルマサヨリ

海にいるサヨリによく似ている。捕れた個体は5～6cmと小さいが、15～6cmの大きさに成長する。長い口は下あご。水草に卵を産み付ける。

ボラ（子ども）

捕れた個体は小さい子ども。4、5年で大きく成長する。海で卵を産み回遊魚。

オオクチバス（ブラックバス）

特定外来生物。捕った魚を運搬したり飼育したりすると罰せられる。体の中央に線状の模様がある。

ダントウボウ

中国から移入された魚。琵琶湖にもいる。

ヌマチチブ

ハゼの仲間。縄張り争いや求愛行動のとき、声を出して鳴く。

モツゴ（クチボソ）

受け口の頭部の形からクチボソとも呼ばれる。目のところに黒い線状の模様があるのが特徴。

テナガエビ

霞ヶ浦にすむ代表的なエビ。名前の通りはさみのある脚が長い。食べると美味しく漁業の対象となる。

スジエビ

テナガエビとともに霞ヶ浦にすむ代表的なエビ。名前の通り体に黒っぽいすじがある。

ヨシノボリ

ハゼの仲間です。小さいときはヌマチチブとの見分けが難しい。5、6月ごろ川の上流へ上る。

オオタナゴ

中国から移入された外来魚。胸に黒いポチ模様があるのが特徴。

タイリクバラタナゴ

アジア大陸や台湾原産の外来魚。中国から移入された。美しい魚であるが在来のタナゴの生息に大きな影響を与えている。

第5回霞ヶ浦自然観察会



開会とオリエンテーション



講師の先生から投網の使い方の説明を受ける



投網が広がる様子の実演



身支度を整えて採集の開始



指導を受けながら投網に挑戦



お父さんも負けずに挑戦



講師の先生から捕れた魚の解説をしていただく



最後に観察した魚を放流する